

事務 事業名	コード1	0240	市バス運営事業	課 所属班 電話番号	市民生活課 市民生活支援班 62-5396 内線 127		
	コード2		☐ 主要事業				
政策 体系	基本方針		対象外	予算 科目	会計		
	施策		対象外		一般会計		
	施策の展開		対象外	根拠 法令	旭市バス使用要綱		
	基本事業	999	基本施策に位置付かない事業				

1 現状把握(Do)

(1) 事業概要

① 事業期間	② 事業の内容 ※何をどのようにする事業なのか、市民が理解できるよう記述する、行政用語は使わない
☒ 単年度繰返 ☒ 昭和 54 年度～ ☐ 開始年度不詳 ☐ 期間限定複数年度 平成 年度～ 平成 年度まで ※全体像を記述⇒	学校行事の社会科見学や部活動の大会参加のための送迎として、また、市主催の行事や市関係団体の研修会の送迎として運行している。(旧旭市バス 昭和58年、旧海上町バス 平成2年、旧干潟町バス 昭和54年に設置) 現在は2台の市バスを運行し、運転業務委託契約をしている。 高速利用料及び駐車場利用料を利用者負担とし、その他維持管理費については市の予算で行っている。 【業務の流れ】 ①利用者数は最低20人以上で、市内の施設での会議や市の行事などに市民を送迎する場合に使用。②市及び学校行事は年間を通じて優先的に予約可能。一般は使用予定日の2ヶ月前から予約できる。③申請書は使用予定日の2週間前までに提出する。④バスの使用料は無料だが、高速通行料金は使用団体の負担となる。⑤バスの1日の運行範囲は300km以内で、宿泊は認めない。⑥使用時間は午前8時30分から午後5時までとするが、大会の使用時間により前後1時間は許容範囲とする。

(2) トータルコスト

① 事業費の内訳(費目等)					単位	21年度 (決算)	22年度 (決算)	23年度 (決算)	24年度 (計画)	25年度 (計画)	26年度 (計画)
	H21	H22	H23	H24	事業費						
需用費	3,576千円	3,514千円	4,260千円	4,180千円	国庫支出金	千円					
役員費	163千円	186千円	112千円	119千円	都道府県支出金	千円					
委託料	9,064千円	9,543千円	8,993千円	9,384千円	地方債	千円					
使用料及び賃借料	1,053千円	1,074千円	986千円	1,140千円	その他	千円	1,025	944	1,047	1,140	
公課費	183千円	145千円	145千円	145千円	一般財源	千円	13,014	13,518	13,449	13,828	
② 延べ業務時間の内訳					事業費計(A)	千円	14,039	14,462	14,496	14,968	0
2時間×20日×12ヶ月					人件費						
					正規職員従事人数	人	0.24	0.24	0.24	0.24	
					延べ業務時間	時間	480	480	480	480	
					人件費計(B)	千円	1,824	1,824	1,824	1,824	0
					トータルコスト(A)+(B)	千円	15,863	16,286	16,320	16,792	0

(3) 事務事業の手段・目的・上位目的及び対応する指標

手段	① 主な活動	⑤ 活動指標名	単位	21年度 (決算)	22年度 (決算)	23年度 (決算)	24年度 (計画)	25年度 (計画)	26年度 (計画)
	23年度実績(23年度に行った主な活動) 学校行事の社会科見学や部活動の大会参加のための送迎と市主催の行事や市関係団体の研修会の送迎	ア 1号車稼働日数	日	205	215	219	245		
目的	24年度計画(24年度に計画している主な活動) 学校行事の社会科見学や部活動の大会参加のための送迎と市主催の行事や市関係団体の研修会の送迎	イ 2号車稼働日数	日	219	235	215	244		
		ウ							
目的	② 対象(誰、何を対象にしているのか) 市内小中学生や市関係団体	⑥ 対象指標名	単位	21年度 (決算)	22年度 (決算)	23年度 (決算)	24年度 (計画)	25年度 (計画)	26年度 (計画)
		ア 年間利用団体数(市関係)	件	76	92	82	73		
目的	③ 意図(対象がどのような状態になるのか) 学校行事や市関係団体の活動を支援。	イ 年間利用団体数(教育委員会関係)	件	370	390	382	416		
		⑦ 成果指標名(考え方)	単位	21年度 (決算)	22年度 (決算)	23年度 (決算)	24年度 (計画)	25年度 (計画)	26年度 (計画)
上位目的	④ さらに、どんな上位目的に結び付けるのか 市バスの効率的な利用と必要最低限の台数の確保を行うとともに、労務管理を含めて民間へ業務委託する。また、学校用バス(教育委員会用バス)への移行の検討を行う。	ア 平均稼働率 ()	%	69.8	72.3	70.8	80		
		イ ()							
上位目的		⑧ 上位成果指標名(考え方)	単位	21年度 (決算)	22年度 (決算)	23年度 (決算)	24年度 (計画)	25年度 (計画)	26年度 (計画)
		ア 教育委員会関係稼働率 ()	%	83	80.9	82.3	85		
		イ ()							

(4) 事務事業の環境変化、住民意見等

① 開始したきっかけは何か？どんな経緯で始まったか？	② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか？開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったか？	③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？
公共施設における会議や研修会、行政視察などの送迎に使用し市民の利便性を図るため開始された。	旧干潟町バスの売却や道路交通法の改正に伴い、使用の範囲を限定した。 (子ども会は生涯学習課の民間バス助成金を利用) (保育所はチャイルドシートの不足等により貸し出ししない) ※平成20年12月17日売却	貸し出しの範囲を広げて欲しい。

事務事業名	市バス運営事業	課名	市民生活課	班名	市民生活支援班
-------	---------	----	-------	----	---------

2 評価(Check1)担当者による事後評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？意図することが上位目的に結びついているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 結びついている ⇒【理由】 市バスの貸出しがあることにより、校外学習や研修時において、バス借上代の費用負担がない。
	② 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 適切である ⇒【理由】 旭市バス使用要綱により対象を限定しているため、妥当である。
	③ 行政関与の妥当性 なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して実施すべきか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 妥当である ⇒【理由】 使用目的を学校行事と市の関連行事等としているので、対象者の利便性を考えると妥当である。
	④ 成果の現状水準 あるべき水準や目標に達しているか？近隣市や類似団体と比較してどうか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 妥当である ⇒【理由】 市及び学校行事は年間を通じて予約可能のため、妥当である。
有効性 評価	⑤ 成果の向上余地 次年度以降の成果向上が期待できるか？事務事業を取り巻く環境変化等を考慮するかどうか？	☐ 活動量を増やせば成果は向上する ⇒【理由】 ☒ 活動量を増やさなくても、やり方を工夫することで成果は向上する ⇒【理由】 ☐ 活動量を増やしたり、活動を工夫したりしても、今以上成果は向上しない ⇒【理由】 民間へ業務委託することにより、稼働日を増加させることができる。 また、稼働日の増加に伴い稼働率の向上にもつながってくると見込まれる。
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業の他（民間・国県を含む）に方法があるか？ ↓ 他に手段がある場合 (1)具体的にはどのような事務事業か？ (2)類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	☒ 他に手段がある ↳ (1) 事務事業名：(市バス運転業務委託) (2) ☐ 統廃合ができる ⇒【理由】 ☒ 連携ができる ⇒【理由】 ☐ 既に統廃合・連携している ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 現在の運行状況と同一内容の業務を民間に委託し、コストの削減を図る。
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地 (表面トータルコストの事業費部分) 事業費を削減できないか？(経費の精査、過剰仕様の適正化、回数削減、住民の協力、アウトソーシングなど)	☒ 削減余地がある ⇒【理由】 ☐ 削減余地がない ⇒【理由】 使用時間の徹底をすれば可能である。 午前8時30分から午後5時までであるが、時間外が多くなっている。また、2号車は購入から16年が経過しているため、買い替えや廃止、将来的には学校バスとしての活用も視野に入れ検討が必要である。
	⑧ 人件費の削減余地 (表面トータルコストの人件費部分) やり方の工夫(業務プロセスの改善など)や臨時職員の活用・委託により、正規職員の延べ業務時間を削減できないか？	☒ 削減余地がある ⇒【理由】 ☐ 削減余地がない ⇒【理由】 要綱を改正し、申請書類を簡素化することで、業務時間を削減できる。
公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】 予約状況は学校行事が大半を占めるが学校行事でも修学旅行や遠足、レクリエーション、部活動については練習試合は使用不可とし、利用を規制している。

3 評価(Check2)担当課長による評価結果と総括

(1)1次評価者としての評価結果 ① 目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ② 有効性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり ③ 効率性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり ④ 公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり	(2)全体総括(振り返り、反省点) 2号車の老朽化による修繕料の増加を考慮した場合、市バスの使用最低限の台数確保のため車両をふくめた民間業務委託が必要と考える。
--	---

4 今後の方向性(事務事業担当課案)(Plan)

(1) 今後の事業の方向性(複数選択可) ※2～3年後を目処にした方向性 ☐ 目的再設定 ☐ 事業のやり方改善による成果向上 ☒ 事業のやり方改善による事業費削減 ☐ 受益機会の適正化 ☐ 廃止・休止 ☐ 行政関与の見直し ☒ 事業統廃合・連携(関連事業:民間への業務委託) ☒ 事業のやり方改善による延べ業務時間削減 ☐ 費用負担の適正化			(3) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要) <table><tr><th colspan="2" rowspan="2"></th><th colspan="3">コスト</th></tr><tr><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr><tr><td rowspan="3">成果</td><td>向上</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>維持</td><td>○</td><td></td><td></td></tr><tr><td>低下</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持	○			低下			
			コスト																					
			削減	維持	増加																			
成果	向上																							
	維持	○																						
	低下																							
(2) 改革改善案について ※いつまでに、なにを、どうするのか？ ① 平成25年度運転業務を民間委託する。 ② ③ ④																								
(4) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策 ① 2号車の老朽化が進んでおり、修理も多く、安全面から考えると買い替えや廃止の検討が必要。 ② 市民活動を支援するためには、1台の運行では難しい。 ③ 継続的に運行できるよう民間委託し、経費の削減を行う。 ④ 1台を廃止する場合は、補助金等の協議が必要。																								